



## 『木瓜原（ぼけわら）遺跡 古代の製鉄コンビナート』

木瓜原遺跡は7世紀末～8世紀初頭に製鉄・製陶(須恵器=すえき・土師器=はじき)から梵鐘(ぼんしょう)の铸造までをおこなっていた、さながら古代のコンビナートとも言うべき総合生産遺跡です。遺跡は琵琶湖との比高50mほどのなだらかな丘陵地帯のなかに位置し、4kmほど南西には近江国庁(おうみこくちょう)が営まれていました。瀬田丘陵一帯はこの近江国庁の設置とともに開発が進められ、木瓜原遺跡もその一環として律令(りつりょう)国家建設に大きく関与していたものと考えられます。瀬田丘陵に展開した製鉄遺跡は、確認されているもので源内峠(げんないとうげ)遺跡・木瓜原遺跡・野路小野山(のじおのやま)遺跡があり、それぞれ7世紀中頃・7世紀末～8世紀初頭・8世紀中頃に操業を行なっています。また、須恵器を生産した製陶遺跡は山ノ神遺跡・笠山遺跡・三池/新池遺跡・木瓜原遺跡の順に展開していきます。これら律令時代に展開した瀬田丘陵の工業生産施設の中でも製鉄と製陶が同じ敷地内に配置されているのは、この木瓜原遺跡だけです。発掘調査は13万㎡に及び、周辺に分布する一部の木炭窯を除いては、ほぼ遺跡の全体が調査されました。

近江の製鉄が始まった時期は、5世紀の末になると言われていますが、確定には今後の実証が必要です。製鉄は平安時代の中期まで続いたようです。又、この製鉄遺跡では鉄鉱石(岩鉄)が原料として使われていました。日本の製鉄の初期の段階は鉄鉱石(岩鉄)を使った製鉄ですが、古墳時代の後半から砂鉄製鉄が主流になってゆきました。



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/>  
[ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!